

後編

三才因緣辨疑
上

2384

0453

天竺の因縁

中屋齋
 十ノ六ノ
 十ノ六ノ
 十ノ六ノ

○天狗の歩法	○人魂	○迷の火并境の火
○磁石の鉄と吸因縁	○象水よすむ因縁	○名片石とさふ因縁
○花のさく因縁	○秋も此時笑する因縁	○後世を福ふ人生活は如何と と時時をさつめる因縁
○雪の繁	○天の鳴因縁	○ゆみぢ乃因縁
		○大地のなる因縁

後編
 ひら
 かな

三才因縁辨疑

全部
 三冊

○山の鳴因縁	○仲のなる因縁	○かひたいこたいて考か番と かひたいこたいて考か番と
○天竺に歌うる因縁	○炎と痛と守る因縁	○火のりて上へあり水もさ 下へなる因縁
○樹の因とてらす因縁	○火石より物かかひする あつたてりし痛	○新佛の採利生
○緒の因縁	○四月かた松とてさむい さうさうとてさむい因縁	○河内を去る術
○人一生ならり歩自由と えくくわんえん	○心のゆるさむとてなりあ あひるふかる事	○河内を去る術

三才因縁辨疑後編序

道は天に考ふは則ち其理順也
 知智を求むれば時を違ふ也。天の
 公のく知ハ私に近ト云と
 日月の速り。寒暑の生来大
 日不及よりして年々運運有
 といふ。三百六十五度の行
 此法は事なり。此比究るが



といへど。陰陽をせむに能はし
 ことせしむ。あまのりく。三才同縁を疑
 三才いゆと有所不足仍補之
 書肆の求を塞と號して。無疑
 後某と題を何れ抄字の人此
 公ひを恐るんやと云

平時享保十三載孟夏月

攝陽 野人 村上俊清自序

目錄

- 天物の河注
- 人魂
- 新ひれ火 新ひれ火
- 新ひれ火 新ひれ火
- 新ひれ火 新ひれ火
- 新ひれ火 新ひれ火
- 新ひれ火 新ひれ火
- 新ひれ火 新ひれ火

- 妙意 賢徳の所成
- 法を 善くし人の心を金剛にして
- 此の 徳を 徳に法に因縁
- 徳の 徳
- 徳の 徳
- 徳の 徳

三才因縁辨疑後編卷之上

○ 天狗

智慧は二種あり。正智と邪智と。先邪智と云
 ハ。諸根通利なり。凡て事象しとみことく
 記憶はよくして人の心を遊ばせたり。是れを
 一匹の犬とて之を名づくる。人をも鳥を海
 にも多し。胎中のときが邪智に懐く。他人を侮り
 妬み。親へ不孝に主へ不忠なり。酒食を好
 む。邪智といふ。又正智ハ智慧の働邪智を
 洗く人の一匹て是れを二匹とて之を名づくる。

のせとあり下ほく人と教は。教をくして
認めくがまづ。一む。教のひとら
あま。違よおとつておゆるれやうよ。み
れた親へ考へ。す。まの思を大切と思ひ
んと交は。實をりつて。善を正けて。善を
か。い。教業。情をいせ。おくほせとされ
と。正教といふ。正教は人の。善よが。教
ハ人の害よが。善よが。ハ人の。善よが。ハ
事。と。いふ。ハ人の害よが。事。と。いふ。ハ
正教の人の。善よが。正教の人の。善よが。
或人の目。昔。を。あ。こ。の。を。信。教。と。いふ

此の正教を始て諸山の魔所。天將といふ
者あり。終に言ふ。此の教を。入。ま。ん。う。け。け。は
び。ともあり。善よが。たく。由。し。て。教の
者。と。い。ふ。う。け。け。は。け。も。と。い
せ。ん。よ。も。う。け。け。は。け。も。と。い
命。長。遠。す。て。子。孫。を。ひ。あ。を。治。り。ま。さ。く。な
れ。ん。よ。も。う。け。け。は。け。も。と。い
か。し。定。て。も。も。有。る。教。の。者。が。い。ふ。一。善。え
日。天。然。ハ。世。界。よ。は。い。か。い。外。ハ。終。よ。書
あ。り。ん。形。よ。い。ん。終。よ。ハ。心。の。形。を。い。ハ
に。ま。し。て。佛。の。教。も。鬼。の。形。も。皆。佛。も。鬼

も外おハ金く人とりつれ事なり。其下令也
とりハ佛の心の形なり。鬼の角あり。牙有
ハ勝の耳せとまてさけつれハ毛も心の形
なり。天物の鼻もくげりとあり。又細く海
とハ天物とりハ人なり。我知深くは
のこり。形と勝して。鼻をとり。我ひ勝て
人をけり。見邪といふて人の始よりれとけ
びととり。心勝を命物と名付。勝よりハ取
と善あり。りんとり。た。毛。天物の性なり
て金く。外およハあり。ん。なとん。天物の世
の。尻山なり。毛一匹の人の。佛と鬼と雷と天

物の形ハ。ほんは。ハぬなり

○人魂

五月。七。七月。七。の。雲。の。形。に。雲。火。の。が。く。
雲。く。光。て。大。に。な。れ。物。形。に。形。事。あり。雲。と。毛。
ハ。人の。魂。の。形。け。け。也。と。ん。と。り。ハ。人の。
た。阿。し。い。より。ま。く。も。赤。く。も。形。ハ。が。も。形。也。
眼。よ。き。句。ハ。と。ハ。形。行。の。形。が。ん。そ。ハ。雲。
の。め。く。細。く。な。れ。虫。の。形。く。集。り。て。雲。肉。を。形。
と。見。く。う。は。我。在。文。の。附。類。の。附。く。は。さ。り。と。ん。
形。か。り。て。形。と。く。ん。事。あり。形。よ。て。さ。け。ハ。

かたき素正法よの事持がきゆんを信ま疑の
うバ塞ぐバカ。信成就とみるバ。未来の福
田へ一後をき。率亦よハなびりさびさ向よ
信て出ん玉のそん。源ふんおあなれ人の
智辨よ。びびがごとく。功あをば。皆佛徳のせう
これ。いひおとし。蛇ハ。捨の息なりといひ。のて。
八大菩薩の所説と。明け雷ハ。鬼の塵をうて。
を教を。おきなり。と。く。菊さ。をありて。赤さ。飛
成前に。そ教と。ありて。虎の皮の。騰。さ。せて
捨。書あり。り。比。表ハ。大北の下。ま。の。この
十二枚。きて。ス。と。か。れ。が。ゆ。ん。の。ご。と。と。突。五

て。つ。ま。が。初。く。時。大。北。意。小。麻。呂。大。北。行。大。北
の。意。死。ん。事。を。取。ま。ひ。属。と。改。ん。新。石。と。さ
し。意。あ。ひ。初。林。の。源。と。あ。と。て。捨。り。く。とも。
り。や。後。下。の。要。石。麻。呂。の。林。の。あ。死。ん。源。り
ア。と。あり。と。あ。ひ。の。林。初。の。い。ま。ゆ。と。作。り。
正。法。檢。方。便。の。神。ゆ。て。を。禱。し。ま。れ。お。あ。り。あ
ん。の。は。ん。か。と。ぢ。ま。迷。ひ。の。ま。の。も。も。が。信。と。よ
ご。ら。あ。い。細。り。が。た。あ。し。い。も。じ。ご。と。く。飛。け
べ。い。せ。ハ。り。は。り。空。剛。經。よ。説。を。取。ま。さ。る
と。向。く。如。來。亦。あ。覺。の。か。ま。の。有。り。な。れ。バ。未
來。の。福。田。へ。去。れ。と。ゆ。と。説。へ。い。と。ん。お。し。や

けしやの火事の如くも胸を刺す如き有り
よの夜の火事とて火の騒ぎの如くも
此の世の火事たるは多し。されども
火事の本質の如くは、人の心を
火の如く燃やして、人の心を
火の如く燃やして、人の心を
火の如く燃やして、人の心を
火の如く燃やして、人の心を
火の如く燃やして、人の心を
火の如く燃やして、人の心を
火の如く燃やして、人の心を

○道心の火災焼が火

人海に居て、火災の如くも胸を刺す如き有り
火の如く燃やして、人の心を
火の如く燃やして、人の心を
火の如く燃やして、人の心を
火の如く燃やして、人の心を
火の如く燃やして、人の心を
火の如く燃やして、人の心を
火の如く燃やして、人の心を
火の如く燃やして、人の心を
火の如く燃やして、人の心を

火災の如く

火

九代と人ハバト。大海の舟を繋ぐの天目へ
波並へくはらわし。天目てりとの垂れ懸へ
ゆれ時ハ。又あつての矢日がれ水と。りとの大
海へ。あられが物も。惜くも慕ふよ。とぞ。ゆ
るさ。海介。他は。水と。地と。くへ。おはれと。ゆ
糸へ。海を。みれよ。の。み。り。く。よ。ハ。ま。原。の。子
細。き。て。未。熟。の。人。に。就。して。ハ。あ。つ。に。就。し。と
成。難。し。も。も。北。に。く。へ。海。に。入。人。ハ。ま。さ。あ。よ
了。る。尺。寸。も。懸。念。の。お。く。た。ま。暫。く。も。凝。滞。せ
に。又。ゆ。糸。へ。け。人。ハ。強。弱。項。は。ま。は。む。な。れ
バ。能。り。と。と。ら。る。能。よ。け。あ。ゆ。人。糖。梅。は。ん

忍母日記

き。際。介。海。介。四。工。境。が。火。と。り。ハ。田。入。十
銭。も。ゆ。と。り。く。上。義。成。を。女。臣。長。心。神。の。能
の。性。を。盗。ん。て。毎。夜。う。え。は。ひ。さ。の。り。さ。と
成。り。て。ま。ま。科。工。修。て。あ。け。と。り。ひ。修。く。と。ま
是。ハ。女。科。生。也。ま。ま。細。ハ。五。の。あ。り。て。あ。ら
究。り。て。い。て。は。案。が。ま。く。成。る。と。り。さ。ち
や。く。ゆ。糸。ハ。春。の。事。を。た。た。く。も。冬。く。も。あ
た。年。ハ。秋。の。御。あ。り。て。も。た。た。く。も。春。を。あ。ら。み
ま。バ。老。い。の。中。老。女。の。あ。ら。べ。あ。ら。く。と。み。あ
海。と。り。く。る。難。也。だ。ん。り。死。密。の。作。を。あ。こ
び。ん。せん。う。ま。の。お。便。と。ぐ。ち。の。人。め。ん。海。を

を判して考へんをバ世間の事と物と物と
 不審な事も
 べき也は世間の因果の神火もを
 理板の傍の砂地と等し

○ 真の水とすむ国縁

人々へ勝てる死にる水の中に熱ハ
 一掃して水を放るるをバ死にる事
 真の水とすむ国縁ハ世間の事と物と物と
 不審な事も
 べき也は世間の因果の神火もを
 理板の傍の砂地と等し

けりおろして水の中よハ自他と
 ば却て死にるハ世間の事と物と物と
 不審な事も
 べき也は世間の因果の神火もを
 理板の傍の砂地と等し

御事いづれと云ふも今く此後いづれ
日のうけをうて過ぐしをいづれ陽を
りく。陰陽和合の如く八有陰陽和合の如
く。陰陽和合の如く八有陰陽和合の如
く。陰陽和合の如く八有陰陽和合の如

○鳥の産を飛鳥紋

人の万物の盡きて天竺の鳥にわく
有陰陽和合の如く八有陰陽和合の如
く。陰陽和合の如く八有陰陽和合の如
く。陰陽和合の如く八有陰陽和合の如
く。陰陽和合の如く八有陰陽和合の如

飛鳥の産を飛鳥紋と云ふも今く此後
人の万物の盡きて天竺の鳥にわく
有陰陽和合の如く八有陰陽和合の如
く。陰陽和合の如く八有陰陽和合の如
く。陰陽和合の如く八有陰陽和合の如
く。陰陽和合の如く八有陰陽和合の如

のそ度少くハ。茲昔孔明視相少てハ。橋正
成ホの良將天化とリ。又行のそれ皆深と心
本平居るを。作此を働。ささし。うえ。敵の
機中を窺りん。と先堀一川を。飛越。屋を謀ハ
つ。つ。魯盤飛彈の。エホの。わね。く。の。ま。ん
さ。由。く。肝。膽。を。く。さ。さ。け。え。ん。お。の。ま。さ。飛。の
を。具。や。く。ね。人。を。と。び。ね。へ。ま。細。く。つ。り。る
れ。翼。と。り。よ。ハ。骸。の中。を。さ。を。く。四。て。人。の。手
足。の。ご。く。働。く。一。枚。く。の。り。よ。へ。春。く。理。解
あ。み。て。人。の。十。ノ。の。指。の。働。く。が。や。は。は。づ。さ
と。考。へ。と。び。ん。と。思。ふ。時。ハ。ち。の。ま。ま。び。ん。で。此

と。ぬ。け。ぬ。お。り。て。考。え。ん。と。思。ふ。時。ハ。ち。の。ま。ま。さ
れ。と。押。ふ。た。と。く。バ。ね。線。の。人。の。ま。ま。と。働。く
て。水。を。お。く。と。胸。前。を。水。を。ぬ。く。時。人。の。ま。ま
と。ち。や。し。て。お。く。う。ん。後。水。を。押。家。時。人。の。ま。ま
と。い。う。て。け。う。く。押。ふ。あ。い。ま。ま。家。と。り。よ
ハ。福。う。ん。水。を。ぬ。く。水。け。う。く。水。と。押。あ。ら。え
思。う。ん。も。神。を。ぬ。く。天。地。と。ま。ま。の。働。き。水
の。ま。ま。の。水。の。光。を。飛。も。を。ぬ。く。飛。け。ん。と
思。ふ。時。ハ。ち。の。ま。ま。と。い。う。働。き。と。い。う。働。う。ん
と。思。う。ん。も。考。え。ぬ。の。ち。の。ま。ま。と。考。え。ぬ。ま。ま
の。ま。ま。と。考。え。ぬ。ま。ま。と。い。う。働。き。と。い。う。働。う。ん

一、佛の何がかりの婦人の垢穢のり
二、佛のわしは一若不得作佛天。二若帝欲三
者摩王四者轉輪聖王五者佛身と説きこふ
此れを以て病く。此等の正法と信交せしむる
是等と信じて。りりされけむ。諸女のの
と婦人へ。持がたよ。此れを以て。諸女のの
諸女舍利勒へ。けられ。此れを以て。諸女の
は。此れを以て。諸女の。此れを以て。諸女の
と。此れを以て。諸女の。此れを以て。諸女の
此れを以て。諸女の。此れを以て。諸女の
此れを以て。諸女の。此れを以て。諸女の
此れを以て。諸女の。此れを以て。諸女の
此れを以て。諸女の。此れを以て。諸女の

肉身を遊して。諸女金毛の佛身と有りしを。
三十二お八十種好十カ四无所畏四無所畏十
八。不具神通道力と具りて。南方无垢世界
へ。死去して。四元の。先んて。諸女を以て。諸女の
の。一舎の大衆皆遠に。足依と説きこふ。此れ玉
と價三千大千世界也との所説がれば。此れ
寶珠。此れを以て。諸女の持物。此れを以て。諸女の
錫杖の。此れを以て。諸女の。此れを以て。諸女の
の。此れを以て。諸女の。此れを以て。諸女の
宝珠。此れを以て。諸女の。此れを以て。諸女の
と。佛とて。諸女。此れを以て。諸女の。此れを以て。諸女の

一國の... 文...
 一國の... 文...
 一國の... 文...

田尤欲也。又若子上焉。仁人心也。家人
 之路也。言其路不由欲其心不知求。良乎入者
 雖大欲知求有放心不知求。學同の道を化求
 其放の... 仁人之心也。家人
 之路也。言其路不由欲其心不知求。良乎入者
 雖大欲知求有放心不知求。學同の道を化求
 其放の... 仁人之心也。家人
 之路也。言其路不由欲其心不知求。良乎入者
 雖大欲知求有放心不知求。學同の道を化求

Paul

パ学同を... 仁人之心也。家人
 之路也。言其路不由欲其心不知求。良乎入者
 雖大欲知求有放心不知求。學同の道を化求
 其放の... 仁人之心也。家人
 之路也。言其路不由欲其心不知求。良乎入者
 雖大欲知求有放心不知求。學同の道を化求

三才用命を絶後局上巻終

